ちょっと名大史

211

若き日の森光子と汪兆銘護衛官の恋

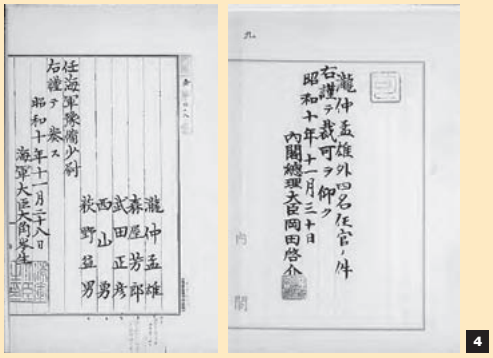
汪兆銘が、太平洋戦争中に名古屋帝国大学医学部附属医院で手術を受け、ちょうど75年前の1944(昭和19)年11月に同医院で死去したことは比較的よく知られています。そして近年、その汪兆銘の護衛官と、国民栄誉賞を受賞した女優の森光子さんが、淡い恋仲にあったというエピソードが明らかになりました。

森光子さんの回想によると、当時20代前半の森さんは、外地の日本軍への慰問団に歌手として加わっていましたが、そのさなかに南京で出会ったのが、汪兆銘の護衛官だという滝仲孟雄海軍大尉でした。2人は、1944年の秋に名古屋で再会します。当時の森さんは、大須の劇場に出演していましたが、その楽屋に滝仲大尉が訪ねて来ました。その時は食事をしたくらいで別れましたが、まもなく滝仲は森さんの京都の実家を秘かに訪ね、森さんの伯父に森さんとの結婚について話したそうです。しかしその直後、滝仲の消息は途絶えてしまうのです。

最近になって、汪が死去した日に医学部附属医院で当直医として勤務していた医師の手記が見つかりました。これによれば、滝仲大尉は、汪死去の翌日にピストル自殺を遂げたというのです。

この滝仲大尉は1913(大正2)年に生まれ、海軍兵学校ではなく一般の大学か専門学校を卒業後、軍用機の予備搭乗士官を養成する海軍航空予備学生の1期生となり、1935(昭和10)年に海軍予備少尉に任官されました（写真4)。その後、日中戦争において、予備中尉として海軍機を操縦し、多くの戦闘に参加した記録が残っています。森さんは、滝仲は汪の専用機を操縦していたと回想しています。その経歴を考えると、本務は護衛より操縦の方だったのかもしれません。

滝仲大尉（正確には予備大尉）の消息ですが、遺族会の刊行物には、戦後まもなく病死したとあります。このエピソードには、まだ謎が残されているようです。



1　汪兆銘（1883-1944)。蔣介石と並ぶ中国国民政府の指導者だったが、日中戦争で蔣と袂を分かち、重慶で抗戦する国民政府に対抗して日本が擁立した南京国民政府の主席となった。

2　森光子（1920-2012、朝日新聞社提供)。森さんは、戦後も滝仲の行方を捜したが、遂に果たせなかったと言う。

3　大学文書資料室と附属図書館医学部分館が共催する企画展が、森光子さんと滝仲大尉について展示していることを報じる朝日新聞(名古屋本社版、2014年8月23日、承諾書番号19-4418、朝日新聞社に無断で転載することを禁止します)。

4　滝仲孟雄ほか4人の海軍予備少尉任官について、海軍大臣の天皇への上奏書（左）と、内閣総理大臣が天皇に上奏書の裁可を求める文書（右、いずれも国立公文書館所蔵)。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内　名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む
NAGOYA UNIVERSITY プロジェクト NU MIRAI

特定基金　名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。

工学　ベンチャー　青色LED　医学未来人材　アジア法律家　病院　女性リーダー　図書館　経済100周年　修学支援　ジェンダー　農学　保健医療リーダー　ITbM　附属学校
創薬　PhD登龍門　理学　教育70周年　博物館　減災館　文学75周年　数理科学　医学150周年　エジプト　漕艇部　博士課程人材育成支援

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。

■ 詳しくはホームページをご覧ください。
名古屋大学基金　http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/
アクセスはこちらから